

大岡弘晃 個展「それはいのち」

会期：（前期）2021年7月20日（火）～8月9日（月）

（後期）2021年8月18日（水）～9月5日（日）

会場：DIGINNER GALLERY

美術家 大岡弘晃の個展を開催します。今回は前期に平面作品を主に展示し、後期は会場をインスタレーションし、よりテーマ性を具現化することで大岡のインスピレーションを再考してみる試みになります。

bundle of colors=色の束

大岡作品でしばしば現れるコンセプトである。

大岡の作品は様々な色が混じり合い、荒ぶる色同士が衝突し、とても繊細で美しい金の線描が戯れていたります。中には画面が黒く覆われる作品も多いが、絵の具は沢山の色が混ざること互いの明るさを奪い必然と黒っぽくなっている。光の三原色が示すとおり、光は色の光を重ねることで白に近づいていく。大岡はその原理をキャンバス上で再現できないかと考えた。

大岡がまだ幼い頃に見た光の光景、目蓋を閉じていても感じるほどの強い金の光は、悩み苦しき絶望していた頃の自分を救ってくれた。大岡にとって光を描くきっかけとなったこの出来事は、2018年に宮崎県の実家で作品を制作していた時、作品いっぱいのにせた金箔に朝日が反射して強烈な光を放っていた。と同時に蘇った当時の出来事は、大岡に光を描くことの必然性と、自身の根底にある悩みや苦しみに光をあて、それを受け入れることだと知ったのである。

大岡が作品を制作する上で最も大事にしていることが、「場読み」である。

一年中全国各地を廻り、時には海外へも赴く大岡は、それぞれの土地が持つ「気」のようなものを读むのである。街も人も寝静まっている時間に徘徊すると、地層から湧き上がるエネルギーを得ることができるのだそう。場所毎に異なった印象を与える大岡の作品は、その場特有の空気感や時間の流れなどが調和することで生まれている。

「色の束」「光」「場読み」から構築される大岡弘晃の新作を、ぜひ皆様にご高覧頂きたいです。

◆Profile／プロフィール

大岡弘晃

宮崎県生まれ

国内・外の滞在制作で

その土地ならではの空気を読み、それに合う道具や技法を編み出し、自分の中に取り込む活動を軸に活動している。

2015年

香川県坂出市アートプロジェクト後援2人展「ERNTE」

2017年

宮城県仙台市 中本誠司現代美術館「鏡に光芒」

2018年

宮崎県立美術館「yes.」

2019年

岡山県玉野市 東山ビル「miirror, in the flat calm」

鹿児島県鹿児島市 mado ASH DESIGN & CRAFT FAIR「桜島とわたし」

青森県八戸市 saule branche shincho「金のきざはじからダンスする」

2020年

東京都目黒区 DIGINNER GALLERY「かかきき」

愛知県蒲郡市 uraya「yesに光を重ねたら」

東京都目黒区 DIGINNER GALLERY「いしきのニュータウン」

宮崎県都城市「（溶けて-固まり）ひとつになって」

鹿児島県鹿児島市「わたしのゴースト、アグン山の身体」

https://www.instagram.com/oo____ka/

是非、貴誌・貴社にてご紹介下さいますようお願い致します。ご質問がございましたら下記までお問い合わせ下さい。

.....
DIGINNER GALLERY 担当：鈴木宏信

〒152-0035 東京都目黒区自由が丘1-11-2

Tel. +81(0) 3 6421 1517 E-mail: contact@dinner.com

Web: www.dinner.com

営業時間：11:00 - 19:00／最終日17:00 定休日：毎週月・火曜（祝日を除く）

